

全ての争議を解決し
安全・安心の航空へ

航空連ニュース

航空労組連絡会
大田区羽田5-11-4 フェニックスビル
Tel 03-3742-3251
Fax 03-5737-7819
No.952(34-02)2019年10月19日

福家 JAL 人財部長の嘘

「労使で話し合いを行っているが、
合意に至っていない」



ディーセント・ワーク実現に向けたフォーラムで

9月18日、国連大学で2020オリンピック・パラリンピック組織委員会とILO共催によるディーセント・ワーク（人間らしい働き方）実現に向けたフォーラムが開催されました。参加者は約100名で、JALの福家（ふけ）人財部長（特別協議では会社のトップ）はモデレーターの一人として参加しました。第一部のトップとして福家氏は、企業理念、JALフィロソフィ、社員の物心両面の幸せ、人権尊重と多様性、女性活躍、LGBTなど、素晴らしい言葉を並べてJALをアピールしていました。4人が発言したあと、馳（はせ）浩自民党衆議院議員が「JALは不当解雇争議が解決していないと思うが、争議が長引くのは良くない。どうなっているのか」と質問しました。質疑応答は以下の通りです。

馳議員：不当解雇問題の現状は？ 長すぎるのは良くない

東京オリンピック組織委員会の評議委員をしています馳と申します。

日本航空の福家さんにお伺いしますけれども、いわゆる不当解雇問題等について現状はどうなっているのでしょうか。

大変関心が深くてですね、この問題があまり長すぎるのは良くないことかなあと見ております。いかがかと、ちょっとお伺いします。

福家部長：合意に至らない部分もあって…… できる事はないか考えていく

当社は2010年に経営破綻しまして、その時に更正計画の一環で、事業の大幅縮小合わせて機材の売却もありました。旧株主の皆様には大変な迷惑をかけた。債権の放棄もした。

事業の縮小に伴って人員削減ということで、当時5万人いた社員3万人、3万人にという人員削減の中で、**【注1】**希望退職等もやったんですけれども、人数に至らず、165名の方の整理解雇ということに至った。その後、裁判が起り裁判自体は終結しているんですけれども、支援する皆さんとの間で争議が続いている、それが今の状況です。

労働組合ともこの問題については、協議をずっと続けてきています。色々ご要求も頂いている中で**【注2】**何か解決する手立てはないかと協議は続けているんですけれども、なかなか合意に至らない部分もあって今も続いている、このような状況です。

昨年から再雇用ということで、整理解雇された方も含めて当時去られた方も含めて、かつて会社内に在籍された方も対象にして再雇用の募集ということで続けているんですけれどもなかなか再雇用に結びつかない、年齢的な面もあったりして、なかなか思うようにならないというところで解決に至っていない、というのが現状です。

引き続き会社としても何かできる事はないのと言うところを協議をしながら考えていくというのが現状です

注1：人員削減目標は超過達成していた

嘘

希望退職等もやったんですけど人数に至らず、165名の方の整理解雇ということに至った



事実

人員削減目標よりパイロット 110名、客室乗務員 78名も超過達成していた

注2：合意に至らない部分?? 解決策示さず、応募すれば不採用

嘘

何か解決する手立てはないかという協議は続けているんですけども、なかなか合意に至らない部分もあって今も続いている



事実

統一要求に答えず、具体的な解決策も示さない。
一般公募に応募しても、乗務職として採用された人は一人もいない

経営判断すれば、今すぐに全面解決できる

さらにいえば、公募の年齢基準を超えたのは、JALが争議解決にふみ出さず、いたずらに時間が経過したからです。

昨年5月以来、12回の特別協議の内容、合同団交に応じない対応は、きわめて不誠実であり許されるものではありません。

この争議は経営判断さえあれば、今すぐにでも全面解決できることです。

憲法違反を犯し、嘘によって塗り固められた不当な解雇は誰の目にも明らかです。そして、国連大学での福家氏の発言は、オリンピックの理念を軽んじ、公式スポンサーの品位をおとしめています。

“10回目の大みそかは迎えない” 引き続きのご支援ご協力をお願いします。



【写真】フォーラムが開かれた国連大学前でアピール行動をする原告団